

普及活動情勢報告

情勢報告（平成29年11月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

四万十川中流域の中山間地農業・農村を元気にする取組み ～第20回全国農業担い手サミットinこうち高南地域交流会の開催～



次期開催県・山形県
代表者あいさつ

10月24～25日、情報交換会及び現地研修会を開催し、県外から意欲ある農業者等58名が参加されました。

情報交換会では、地域の女性農業者による演劇やよさこい踊りなどのアトラクション、地域特産品の抽選会などを行い、田舎寿司など地域の伝統料理を食しながら総勢127名で交流を深めました。また、翌日の現地研修会では、次世代施設園芸団地や、十和おかみさん市などの取組みを紹介しました。

今後は、この交流会を契機に農業者の相互研鑽や交流をさらに深め、農業者と関係機関が一体となって、農業者の経営改善と地域農業の発展を目指して取組んでいきます。

四万十町で田舎暮らし体験 ～農業体験モニタリングツアーの開催～



ショウガの芽切り作業

11月4～5日、四万十町影野地区で農業体験モニタリングツアーを開催し、県外から1名の参加がありました。

1日目の座談会では、町役場から地域農業の概要や移住体験施設の紹介、普及所からは新規就農者の状況を説明しました。その後、ショウガほ場で掘取体験や、地域の方との交流会を開催しました。翌日は、米こめフェスタ会場でイベントに参加するなど四万十町を満喫していただきました。

四万十町では、農家住宅の整備と併せて新規就農者の受入体制の整備に取り組んでおり、今後も関係機関と一体となって、担い手確保に向けて取組んでいきます。

複合経営拠点の事業戦略の具体化に向けて ～中山間農業複合経営拠点先進地視察～



担い手法人からの説明

11月16～17日、中山間農業複合経営拠点3社の社員や、JA四万十、町役場、普及所の職員など計28名で、長野県飯島町での取組を視察しました。

飯島町では、営農センター、地区営農組合、担い手法人からなるいわゆる3階建て方式による取組みや、担い手法人及び荒廃地対策として栗栽培に取り組む農業法人から説明を受けました。参加者からは、四万十町にも町域の企画調整機能や、地図情報システムの整備が必要であるなど感想が聞かれました。

今後も、関係機関と連携して、地域農業・農村を維持・発展させる地域営農の仕組みづくりに取組んでいきます。

地域外から新しい力を ～JA四万十ショウガ部会の労働力確保の取組み～



アルバイトと生産者
等が交流

JA四万十ショウガ部会を対象に、収穫作業の労働力確保に取組み地域外からのアルバイトを22名確保しました。11月2日、11月20日には、生産者や関係機関との交流会を開催し、アルバイトが延べ17名参加しました。交流会では、生産者との交流や四万十町の自然に感激したとの感想が聞かれました。

普及所はこの取組みに対して、JA四万十無料職業紹介所とともに高知市での新聞折り込みチラシや求人情報サイトを活用した募集、宿舎の確保、移動手段の検討などを行いました。

今後は、アルバイトからの意見を踏まえ、次年度に向け、関係機関と連携して取組んでいきます。

ニラの本格出荷に向けて ～JA四万十ニラ部会出荷検討会～



労働力アンケートの
中間報告資料を説明

11月22日、ニラの本格出荷に向けてJA四万十ニラ部会出荷検討会が開催され、市場関係者3名と生産者31名が参加しました。

検討会では、平成29園芸年度ニラ優良成績者表彰、産地報告をはじめ、今後の市場状況や販売情勢についての報告があり、生産者は熱心かつ関心を持って聞いていました。

普及所からは、JAとともに実施している個別巡回による労働力アンケートの中間報告や、増収・品質向上にむけた環境制御技術の導入効果について説明しました。

今後も関係機関と連携して、アンケートの実施や最終結果の取りまとめを行い、その分析結果に基づく対策に取り組んでいきます。